

旧養父グンゼ跡地活用方策（骨子）

～「(仮称) 養父ベンチャーズビレッジ」構想～

(基本的な考え方)

養父市では過疎化や少子化・高齢化による人口減少が進行しているが、このような状況にあっても時代の潮流に的確に対応しながら、将来に向けて持続可能な発展を成し遂げ、将来の養父市を担う子どもたちが将来にわたって“住み続けたい”と思うことができるまちづくりを進めていく必要がある。

当該プロジェクト地はかつて養蚕業で栄えた養父市において、日本を支える優良企業グンゼ株式会社が長年にわたり地域産業を牽引し、地域振興を図ってきた場所。大正時代の郡是製糸養父工場の開業から 100 年超が経過する令和の時代に再びこの地で、プロジェクト地の歴史的背景を踏まえ、多様な働き方、暮らし方ができる全く新たな空間『知と創造の拠点』を創り、地域のにぎわいを取り戻すとともに、過疎化が進む地方でのモデルケースとなり得るまちづくりに取り組む。

1. 「知と創造の拠点」

プロジェクト地では、域内外のクリエイティブな若者が集い循環し、新たな事業やサービス展開にチャレンジ。その効果は市内全域をはじめ但馬地域全域、さらには全国・世界へ波及する但馬地域のベンチャー（新しい事業やサービスを展開している企業）支援の拠点となる「知と創造の拠点」を目指す。

(1) 関連する導入施設の例

○インキュベート施設

- ・スマートアグリ（ロボット技術や情報通信技術を活用している農業）をはじめ、水路を活用した小水力や有機農業、養鯉、林業など、地域性を活用した事業や活動はもとより、健康、医療などのトレンド分野など、ここへ来れば何でも挑戦ができる実験場・研究施設・コワーキングスペース等。

○短期滞在施設

- ・チャレンジする若者が滞在できる短期滞在施設。

○商業・カフェ・イベントスペース

- ・日常的な買い物を支える商業機能、カフェ・イベントスペース。地域住民を含めた内外の人的交流を促す。

○中核管理会社の創設

- ・プロジェクト地の施設管理、起業支援のアドバイス等を担う。

○研究拠点（誘致）

- ・ 県の成分試験場、実験場など、広域的な研究拠点等の誘致を図り、研究拠点としての地位を確立。

○地域住民の学習・活躍の場

- ・ 地域住民の学習の場としての図書室等の教育施設の整備（誘致）。

○公共交通の充実

- ・ 広域的な交流機能・産業機能を持った拠点として機能させるため、周辺集落との公共交通によるネットワークはもとより、将来的な駅設置等についても検討する。

(2) 「知と創造の拠点」に誘致するターゲット

○技術革新などのチャレンジで足跡を残したい企業・人材

- ・ 全国的に IT ベンチャーの誘致競争は激しく、当該プロジェクト地は地理的にも有利な条件が整っていないことから、技術革新による新たなビジネスモデルづくりや、新しい技術を活かしたビジネスにチャレンジする意欲のある企業・人材なら誰もがビレッジの基盤を活用して研究・実践に向け取り組むことができ、このような企業・人材の循環により周辺地域や市域全域に活力がもたらすことを目指す。
- ・ 中間管理会社として、やぶパートナーズや養父町開発などの地元地域公共会社がプロジェクト地の施設管理とともに、全国ベンチャー誘致ネットワークと連携した起業支援のアドバイス等を担う。

2. プロジェクト地と周辺環境との連携

外発的な要素（外部から流入）と内発的な要素（地域ポテンシャル）が、合わさり、協働することで互いに高め合い、地域の活性化につなげる。

○意欲的な組織との連携による地域の新たな特徴作り

- ・ 革新的な企業や人材を誘致して事業を展開していくため、既に地域へ拠点を設置する民間企業（アドリブワークス）と積極的に協業し、「SDG s 特化型インキュベーション（起業や事業創出のサポート）」など、地域の新たな特徴作りを図る。

○養父地域一帯の地域資源を活かし、地域全体で生業・居住が継続する場へ

- ・ 周辺の空き家・空き地を活用した定住用住宅や事業所の整備、近隣の農地におけるスマートアグリ等の研究成果を活かした農業の実践、水路を活用した事業展開など、段階的にビレッジから飛び出し、地域資源を活用した生業・居住の充実を推進していく。

○地域住民も活躍できる場へ

- ・ 県立図書館と連携した広域的な図書室等の教育的な施設の整備（誘致）により、プロジェクト地を活用して地域住民が学習・活躍できる場へ。

- ・地域の組織が施設運営に参画する仕組みにより、外部人材だけでなく、地域住民がともに活躍・成長できる場へ。

3. 地域への波及

○ターゲット誘致に伴う地域の生活環境の向上

- ・企業や人材の流入に伴い必要となる商業機能、カフェ等の導入により、地域の生活の利便性等、生活環境の向上に繋げる。
- ・流入する人材の家族に対応し、ITを活かしオンライン教育が可能な単位制学校への教育環境を整備。他には類をみない生活環境を有した地域とすることにより、企業等の誘致や当地域で起業を促進し人の交流を促す。
- ・地元企業との連携による地域教育の充実、この場所から新しい事業を創出するなど、人口減少が進む中で住環境としての魅力強化を目指す。

○定住人口増加や地域の魅力創出へ

- ・当該プロジェクト地では企業・人材向けに一時的な居住の場を提供する一方で、企業や人材の流入に伴い、賃貸で居住する人や、地域へ通う人の増加も期待できる。については、周辺の空き家・空地等を活用し、企業・人材の住まい確保を全力で支援し定住を推進する。
- ・企業や人材の流入には地域の受け入れ体制が重要。地域と行政が一体となった受け入れ体制の構築で人口増加へ繋げる。
- ・地域の方々が、散歩等で気軽に立ち寄れるスペースや、企業や人材の方々と交わる機会をつくり、これまでの地域にはない、地域としての新たな魅力創出に繋げる。

4. 今後の進め方

“旧養父グンゼ跡地活用方策～「(仮称) 養父ベンチャーズビレッジ」構想～”は、4回に渡る「遊休地活用検討研究会」で議論を重ね、取りまとめたものであるが、当該プロジェクト地の活用方策を決定したものではない。今後は、地域の皆様と共有のうえ、地域が描く子や孫の世代へとつなぐまちづくりのあり方とすり合わせ、実現に向けて取り組んで行くべきものである。